

# ほとけの混和会だより

平成二十九年九月

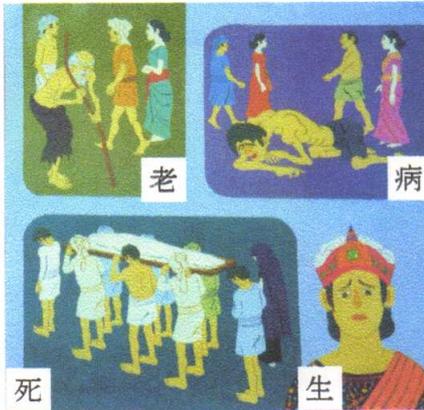
東光院

仏の混和会

第129号

## 人は、何の為に生きているのか

NO.7



【四門出遊】  
生、老、病、死

釈迦国の王子として生を受け、お釈迦様は何不自由無く、毎日を暮らして居られました。

そんなある日、王子様は国の人々ほどのような生活をして居られるのか見に行くことになりました。

先ず、お城の東の門から見に行かれたところ、老いに苦しむ老人の姿を御覧になりました。

すると王子は「己は今、若さにおごっているけど、いずれ老いに苦しむことになる」と歎きお城に戻られてしまいました。

次の日は、南の門から城外に

出て行かれました。すると、今度は病に臥せっている人を御覧になりました。すると王子は「己は今、健康におごっているけど、いずれ病に苦しむことになる」と悲観され、又お城に戻られてしまいました。

更に次の日、西の門から外に出てみると、悲しみに臥せる葬儀の参列に合いました。すると王子は「己もいずれ老いて病み、そして死を迎えなければ成らない」と歎き、お城に帰られてしまいました。

そして王子様は国の人々は、生老病死、その外にも様々な苦しみにあえぎもがきながら生活して居られることを知り「一人の一生は苦しみばかりだ、この苦しみを解きほぐす方法はないものか、又人々皆が幸せに生きる方法はないものか」と、久しく思索されて、王位継承の地位を捨てて出家されたのでした。

その後六年の苦行の後、真理に目覚め、ブツダとして、私達の生きることの目的や意義そして人々が幸せに生きる方法を見いだされたのでした。

### 生老病死、物事は己の思うがままに成らぬ、苦しみでなくなるには



ねーねー！  
お坊さん！  
そこで、

お釈迦様は様々な苦しみや迷いは、又憂いを解き放つにはどうしたら良いと言っているのですか？

そうじゃな  
この度のテーマは、  
「成仏」いわゆる



「仏心」の会得によって全ては解決して行くので、その方法を順番に説明するね。 **イッサイカイク**  
先ず第一に、「一切皆苦」  
お釈迦様は生、老、病、死、  
そして愛別離苦、怨憎会苦、  
求不得苦、五陰盛苦、全ては  
苦しみと言っているのじゃが、  
仏教の「苦」とは、単に苦しい  
ということではなく、  
「思い通りにならない」という  
意味なんじゃよ。

人の一生は己の思い通りにならない。御仏に身を委ねる御心が大切なんじゃよ。

次に、「諸行無常」**シヨギヨウムジョウ**  
世の中のあらゆるものは永遠に存在し続けるものは何一つとして存在しない、絶えず変化し続けているということな

んじゃ。だから己の身や地位や名譽など、物事に執着しない広い広い心を養いなさいと言っているのじゃよ。

次に、「諸法無我」**シヨホウムガ**

全てのものごとは、他と共に影響を及ぼし合う因果関係によって成り立っていると言う事なんじゃが、簡単に言うると他のお陰で生かされていると言うことなんじゃ。これを理解すると、あらゆるものに感謝の念が抱け、苦しみや迷いは、解消されるのじゃよ。

そして、「涅槃寂靜」**ネハンジャクジョウ**  
一切の苦しみを克服した悟りの境地で、私達の目指す処なんじゃよ。

この涅槃の心境を会得することが出来たら己を迷わし苦しめて「自我」の心は薄れて他の幸を願う「仏心」が抱けるのじゃよ。

世の中は、元々己の思い通りにならないことばかりなのじゃ。

全てを御仏の導きに身を委ね、あるがままの心を会得することが出来たら迷いも苦しみも解き放たれ、ゆつたりとした心によつて他の幸を願う「仏心」が抱けるのじゃが、これがなかなか難しい

ね共に努めて行こうね。亮観拝



日本仏教に登場する仏様を、毎号少しずつご紹介。今回は天部の四天王を紹介します。

## 天部 四天王

何かを極めた人、優れた四人を何々四天王と呼称する場面を一度は目にしたことがあるかと思えます。今回はこの語源である仏教の神様をご紹介します。

四天王、その名の通り『持国天』『増長天』『広目天』『多聞天』の四人の神様が揃った時の呼び名です。

四天王は須弥山と呼ばれる仏教の世界の中心に有るとされる架空の山の中腹に住み、それぞれが四方を護る役割を担っており、東方を護る持国天。南方を護るは増長天。西方を護り千里眼を持つとされる広目天。そして四天王最強とも言われる北方を護る多聞天で構成されております。

実は多聞天には別の名前があり、単独もしくは他の神様といるときには『毘沙門天』と名前を変えております。(他の神様というのは七福神です。)

この四人の神様はインドにおいて仏教が誕生する以前から信仰されてきた神様でしたが、お釈迦様の教えを聞き感銘を受け、お釈迦様がこの世を去った後、仏の教えを守護するようお釈迦様より託され、仏教を護る守護神、四天王となりました。

りました。

インドの神様だった時には菩薩様の様な優しい姿をしていたのですが、中国へ伝来すると写真のような甲冑を纏うようになり、鎧を着たまま日本へやってきました。

四天王について書かれた経典によりまずと、人間の王が四天王の経典を信仰し、供養するならば国家を守護する事を誓ったと書かれており、仏教を日本に取り入れようとした聖徳太子は仏教反対派との戦の際、四天王像を自ら作り戦勝祈願をしたと言われております。結果聖徳太子は戦に勝利し、日本でも仏教が信仰されるようになりました。

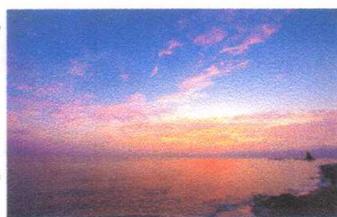


持国天 増長天 広目天 多聞天

重要文化財四天王像

おまけ  
仏教界にそびえ立つ須弥山。孫悟空で有名な三蔵法師さんはインドにて須弥山と言う言葉を漢訳した際、須弥山を『妙高山』と訳されました。新潟県にそびえ立つ妙高山は仏教の神々が暮らすこの山から名前を付けられたそうです。  
京都・海住山寺

亮澄拝



今年梅雨明け以降ぐずついた天候が続く不思議な夏でありました。また、お盆・棚経のお参りでは毎年のことながら、多くの方の親切に触れることができました。改めて感謝申し上げます。

## お盆・施餓鬼法要が行われました

施餓鬼は餓鬼への施しを行い徳を積むもので、本来時節を選ぶものではありませんが、そうした徳を先祖供養へと回向させる『盂蘭盆経』での事象に基づき、夏期にお盆の法要として行っております。

東光院では一般のお盆の供養を十六日、施餓鬼法要は新盆の方を中心に二十二日に行っておりますが、寺院によっては施餓鬼を春先に行う場合もございます。また、昨年は台風により中止となりましたが、今回は近隣寺院の住職も出仕し盛大に執り行われました。亮敬拝



## 御奉仕 御奉納

平成二十九年八月二十六日 岩井植木様のご奉仕により



薬師堂の屋根の上に覆い被さる枝を伐採して頂きました。

平成二十九年七月吉日 岩井良夫様、五十嵐恒様 両名より、本堂の幕を御奉納頂きました。



又、薬師堂の幕を南千住の河合政雄様、河合博様より御奉納頂きました。

以上 謹み御報告申し上げます。尚、檀信徒の皆様より御寄進頂いた境内の階段工事の着工は十二月頃の予定となっております。

お祈ります。 全て完成の後に決算報告等、改めてご報告申し上げます。